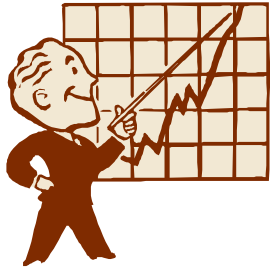


教育に関心のある市民対象

座談会で行う 教育問題を語る講座と各種実技講座



教育政策や技術・職業教育の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、教育に関する豊富な経験と、実績を持つ講師と一般の人々が、座談会のように、教育について気軽に語り合ったり、各種実技体験教室をしようという試みです。

この講座は、39回目の開催にして初めて北海道で開催されます。またとない機会です。ぜひ、ご参加ください

● 日時：2006年 **8月9日 水** 前半 16:30～18:00
後半 19:30～21:00

● 場所：札幌市南区・定山溪温泉 **ホテル 鹿の湯**

● 対象者：教育に関心のある市民

● 資料代：500円 当日お支払いください。

● 定員：各講座先着5～20人

● 申し込み方法：まずはFAX、e-mailで

「講座申し込み」と記入し、「〒住所、お名前（ふりかな） 電話番号またはFAX番号、所属、申し込み講座内容（裏面参照） 申し込み理由」をご記入の上、下記までお申し込み下さい。折り返し返信致します。お申し込みから5日を過ぎても連絡がない場合はお問い合わせ下さい。個人情報には責任を持って管理し、講座の案内などの目的以外には使用しません。

技術教育研究会 定山溪大会現地実行委員会 「講座 市民申し込み」係

<http://gikyouden.amus.info/>

FAX：020-4623-9127 e-mail：gikyouden@amus.info

● 交通アクセス

【自家用車をご利用】

国道230号線を定山溪方向に向かってください。

【じょうてつバスを利用】

JR札幌駅からは豊平峡温泉または定山溪温泉行

（約65分）定山溪湯の町下車、徒歩1分

地下鉄真駒内駅からは定山溪温泉行

（約35分）定山溪湯の町下車、徒歩1分

いずれの場合も、バスの便数があまりありませんので、じょうてつバスのwebページ

<http://www.jotetsu.co.jp/bus/> などで、バスの発車時刻をお確かめのうえ、おいでください。



（講座内容の詳細は裏面をごらんください）

- 内 容：すべての講座は前半と後半の時間に同一の内容で行います。
重複しない1講座ずつ合計2講座まで選べます。1講座のみでも構いません。

1．作って遊んで楽しい工学理論<材料費：500円、各定員5人> 児島高德（愛知県立刈谷工業高校）
情報の「2進数であるカード」や機械の「大気圧でラップ割り」・電気の「コンセントでLED」など工学の理論を色々なものを作りながら遊んでみましょう。

2．はじめての流体力学 門田和雄（東京工業大学附属科学技術高校）
私たちに身近な水や空気などの流体は科学的に考えるととても奥が深く、その工学的な応用には無限の可能性があります。流体力学の基礎から、風車やポンプを用いたものや魚ロボットの研究について体験的にお話しします。

3．中学生が学ぶ特許実践 村松浩幸（三重大学）
ロボコンで始まった校内特許実践は、ロボット以外の分野でも様々なタイプの特許実践を紹介すると共に、次世代の技術教育の内容として、知的財産権について皆さんで考えてみましょう。

4．日本版デュアルシステムの現状と問題点 佐々木英一（追手門学院大学）
2004年度から始まった日本版デュアルシステムは、学校教育と職業能力開発政策の両面で行われている。東京六郷工科高校をはじめ、全国の19地域19校が推進地域・校に指定され、様々な取り組みがなされている。その問題点を明らかにしていきます。

5．みんなびっくり・・・畑が無くてでもできるダイコン、トウモロコシ栽培 直江貞夫（埼玉県草加市立両新田中学校）
収穫を目的とした栽培経験は非常に乏しいので、生徒たちは、学校で栽培した作物など食べられるとは思っていません。だれでも実践でき、生徒がびっくりし、家庭でも話題になるような栽培学習の一例を紹介します。

6．都立工業高校総合技術科への学科改編とその後をどうみるか 小嶋晃一（東京都立小金井工業高校）
1990年代、東京都立工業高校の4校で実施された学科改編「総合技術科」は、既存の全小学科を一つの科にまとめ、生徒は低学年では全員共通履修、学年が進むにつれ「系」「コース」「類型」などに分かれて履修するものである。この総合技術科への学科改編と改編後の経過について、その内容と特徴を実証的に明らかにする。

7．今すぐできるブログで仲間づくり 川俣純（茨城県つくば市立谷田部東中学校）
皆さんは情報発信されていますか？ 情報は発信するところに集まるといわれます。情報発信にブログはとっても役立ちます。これまでに蓄積したノウハウを伝授します。チャレンジしてみませんか。

8．名刺ケースの製作 - 木材加工教育を考える - <材料費1,000円、各定員20人> 久朗津裕之（元札幌市公立中学校教諭）
北海道産のナラ・タモ材でポケット、鞆の片隅に入る作品を選んでみました。製作工程はカッターナイフ等で蓋を開閉するヒンジ・爪等を加工し、外板2枚とスペーサーをボンドで接着して外形を整えます。ただこの小さな作品を完成するだけでなく“人間と木材との関わり”“治具作りのノウハウ”を会話しながら木工の交流を深めます。

9．教え子の技術科教育研究者が語る鈴木利夫 奥野亮輔（北海道教育大学名誉教授）
戦後間もなく今の札幌市立北辰中学校で鈴木利夫先生が職業科金工を教えていました。その独自のカリキュラムの中には、分業と協業を重視した実習や自動車運転学習など興味深いものが数多くありました。また「職業科意見書」を行政に提出し、技術教育の条件整備に尽力されました。時代は変わり、教育基本法「改正」により教育行政の権限として授業内容に介入されようとしています。今、鈴木利夫先生のとりにくみに学びませんか。